

## 知的障害者の生涯教育に関する研究

～高等部在学中から成人期における教育内容の検討と、

生涯学習のための本人向けテキストの作成～

◎内田賢（東京学芸大学人文社会科学講座社会福祉分野）

○小金井俊夫（東京学芸大学附属特別支援学校）

伊藤友彦（東京学芸大学特別支援科学講座支援方法学分野）

林安紀子（東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター）

小島啓治（東京学芸大学附属特別支援学校）

川井優子（東京学芸大学附属特別支援学校）

松本晃（東京学芸大学附属特別支援学校）

吉澤洋人（東京学芸大学附属特別支援学校）

代表者連絡先：shottare@nifty.com

【キーワード】特別支援教育、生涯学習、テキスト、お金の知識、経済、社会科、

## 1.はじめに

平成 29 年 4 月、文部科学大臣から「特別支援教育の生涯学習化に向けて」というメッセージが出された。これに応じ、11 月に「障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実について」が文科省から示されている。これらは、ややもするとスポーツ、芸術・文化といったジャンルに偏りがちであった知的障害者の生涯教育に関し、「教育・学習」という内容を付加するものであると捉えることができる。また、近年、消費者被害等に関わり、消費者教育の重要性が指摘されているところである。知的障害者の消費者教育は、これまでなかなか手がつけられていない状況である。本研究グループは、13 年にわたって東京学芸大学・みずほフィナンシャルグループ金融教育共同研究プロジェクトに参加し、特別支援学校用金融教育テキストの開発等を行ってきた。ここでは、特別支援学校高等部の生徒用「生活とお金」にかかわる内容を検討し、学習用のテキスト作成を行うことができた。この金融教育研究と金融教育テキストの作成及びテキストを使用しての授業づくりの中で課題としてあがってきたのが以下の点である。

- ①生活にかかわるお金の知識だけでなく、社会科的な意味でのお金の知識の学習も必要であること。
- ②作成したテキストが、学校だけではなく、発達障害者の成人期の学習にも使われているという実態より、そのような人たちの生涯教育にかかわるものとしての学習用テキストが必要であること。
- ③上記テキストは本人向けであるだけでなく、学習支援者（教員等）への参考書としても活用できるように作成するが、学習支援者が経済の知識があるとは限らないため、学習の際に使用できる教材も準備することが必要となること。

以上のような課題意識より、以下のことを目的とし、本研究を進めることとした。

- ①社会科的な内容を含んだ「お金の知識」にかかわる学習用テキストを作成する。
- ②併せて、学習の際に使用できるパワーポイント教材を作成する。

また、上記と同様に、知的障害者の就労に関しても、その制度は複雑であり、特別支援学校の進路担当者でも十分に理解できているとはいいがたい状況もある。ましてや、障害者自身にとってはである。このあたりの解説ができるような内容についても検討していきたいと考えている。

## 2. 研究計画と経過

### 1) 研究計画

研究計画は以下のようなものである。

#### (1) 学習内容について

- ①お金の知識にかかわる学習内容を「社会と経済」という名称で検討する。
- ②上記「社会と経済」に関するテキスト（試案）を作成する。
- ③上記テキストに合わせたパワーポイント教材を作成する。
- ④本校の卒業生に協力していただき、青年教室で授業を行う。
- ⑤授業を通してテキスト（試案）、教材の修正を行う。
- ⑥テキスト（修正版）及び教材の公開を行う。

#### (2) 就労に関する内容について

- ①就労に関する内容についての情報収集を進める。
- ②上記の情報に関し、内容の整理と教材化する内容の選定を行う。
- ③周到に関する指導内容を設定し、授業化を試みる。

### 2) 研究の経過

社会的なお金の知識にかかわる内容については、みずほ銀行との共同研究の当初から検討されていた。今回の研究では、以下の5点の作業を並行的に行い、テキスト（原案）作成を行った。

- ①前述のお金の知識にかかわる内容を2018年、2019年の社会状況に合わせ再検討する。
- ②再検討した内容をもとにテキスト（試案）を作成する。
- ③テキスト（試案）をもとに、パワーポイント教材を作成する。
- ④本校卒業生を対象とした青年教室でテキスト（試案）とパワーポイント教材を使用した授業を試行する。
- ⑤試行授業を元にテキスト（試案）とパワーポイント教材の修正を行う。

これまで上記の作業を2018年6月から2019年12月まで行った。試行授業の回数で8回、14時間分である。それぞれの試行授業では、テキスト（試案）（以下テキストと表記する）の1テーマずつを授業化した。1テーマ概ね2時間の試行授業である。テキストは、概ね1テーマ4～6時間ぐらいをめどに作成しているが、それに比べると駆け足での授業となった。

表1 試行授業の回数と内容

授業回数	授業年月	指導内容	時間数	パワポ教材
1	2018.07	給料とその使い方	2	○
2	2018.09	身近な税金とその使途	2	○
3	2018.10	物の値段の決め方	2	○
4	2018.12	外国のお金とその価値	1	○
5	2019.07	保険について	2	○
6	2019.09	年金について	2	○
7	2019.10	新しい決済方法の仕組み	1	○
		お金のトラブルと対応	1	
8	2019.12	契約について	1	○

試行授業終了後、テキストの修正、割り付け等の変更、イラストの挿入、内容の追加などを行った。これらを元に生涯学習用のテキストを作成した。パワーポイント教材については、修正等を加える時間がとれず、その作成は今後の課題となった。また、就労に関する内容については、情報収集を継続するにとどまった。

### 3. テキストについて

#### 1) テキストで取り上げた項目

テキストの内容項目は、「お金」に関して卒業生たちが社会に出て関わると考えられる内容、また社会のいろいろな事象を考える際に必要となる知識といった点から選定した。具体的には以下のようなものである(テキストの目次に添って)。

- ①給料とその使い方 「あなたの給料、今、いくら？」
- ②身近な税金とその使途 「税金はだれのもの？」
- ③保険について 「山あり、谷あり、まさかあり！」
- ④年金について 「年金ってもらえるの？」
- ⑤モノの値段の決め方 「メロンパンはなぜ100円？」
- ⑥新しい決済方法の仕組み 「ガッツです！キャッシュレス！」
- ⑦外国のお金とその価値 「海外旅行に行ってみよう！」
- ⑧お金のトラブルと対応 「社会の約束、私のルール」
- ⑨契約について 「字が小さすぎて読めない!!!」

テキストでは、これらのテーマについて3~4の節を設定し、解説とワークシートで説明するようにした。

#### 2) テキストの内容について

概してテキストで扱った内容は、学校の社会科や家庭科の授業で行われているものである。しかしながら、特別支援学校ではなかなか扱われることが少ない内容でもある。特別支援学校の卒業生たちにとっては、現状では、主に「消費者教育」として、生活とお金にかかわるいろいろな危険への対処に関して聞く機会がある、といったところが実態と考えられる。一方、特別支援学校卒業生のお金の使用、管理に関する状況は、①支援者(保護者)が管理する、②給料をもらって全部使ってしまう、③その障害特性もあり、給料をまったく使わないで家でゲームをしている、などの状況があるようである。卒業生たちは、卒業後就職し、給料をもらうようになって初めて、「たかさんのお金」を目にし、手にする。一生生活していくには、それをずっと続けていくことが必要になるということも、将来、給料がもらえなくなり、年金等で生活していくことが必要になるということも想像することが難しい。そのため、自分たちがもっている給料についての知識や、生活に関わる税金、年金、保険等について、どこかできちんと説明をすることが必要だと考える。そして同様に、お金に関する社会の仕組みを知っておくことも重要であろう。そして、自分たちの生活の中で、「自分はどうか」を考えておくことが大切である。これらのことより、この9項目を選定することとした。

### 4. 教材について

テキストの作成と平行して、パワーポイントの教材を作成した。主に、テキストの解説用教材としてのものである。試行授業では、テキストとパワーポイント教材の両方を使用した。授業者が説明をするための教材として作成したため、授業者に合わせた構成となってしまったきらいがある。今後、内容的に再検討し、さらに一般化できるようなものとして修正していくことが必要である。

## 5. 試行授業について

本校の卒業生を対象とした試行授業を行ってきた。対象となった卒業生は、約10名、軽度知的障害といわれる範疇に入る卒業生たちである。以前、みずほ銀行との共同研究プロジェクトで協力してくれた卒業生たちであり、授業のやり方などにも慣れている卒業生たちである。2年間で計8回、14時間の授業を行ってきた。各回に1つのテーマを扱い、1～2時間の授業を行った。テキスト作成時には1テーマ約3～4時間で構成を検討していたため、卒業生たちには進みの早い授業となってしまった。

そのせいもあり、何回か授業後のアンケートをとったが、「難しかった」「よくわからなかった」という回答が多かった。仮に1つのテーマにレベル1からレベル4までであるとすると、概ねレベル1なら理解できるが、それ以上は難しいといったような印象を受けた。講座後に2回ほどアンケートをとる機会があった(表2)。簡単なアンケートであったが、卒業生たちの本音と思いやりとわからなさが示されているように感じられる。彼らの今後の人生を考えると、社会に出てから私たちも考えることになる「保険」や「年金」などについての何らかのひな形などは無いものか、とってしまうところである。

## 6. おわりに

ここ1～2年で、日本の社会はキャッシュレス化へ大きく舵を切ったように思われる、また、2022年からの成年年齢引き下げに伴い、特別支援学校の高等部3年生の中にも成年となるものがあることとなり、その対応は急務である。特別支援学校の生徒、また卒業生の実態を考えると、18歳で社会に出ていく現実の中で、大人としての意識も、また「お金の危険」に関する危機意識も卒業段階では、非常に心許ないというのが実情である。一方で、現在の「お金」に関する学習の状況は、まだまだ卒業後の「生活に関する学習」といったところまで教えられる時間があればいい方で、なかなか社会で必要となる知識の学習までは追いついていないのが実態ではなかろうか。東京都の特別支援学校の卒業生への学習に関する実践なども出てきてはいるが、実態として卒業後の危機対応という点での授業となっているのが実態のように思われる。今回の研究で取り上げたのは、このような状況の中で、卒業後に必要となるものも含め、社会・経済の基本的なこととして、どのような内容があると考えられるかを示すものであり、それを学ぶための教材のひな形を作成することである。試行授業の結果からすると、これらの教材は、まだまだ改善の余地があり、繰り返して学ぶことが有効な卒業生だとしても内容的検討を必要とするものであるが、一定の試金石となるもののひとつを作成できたものと考えている。

また、今回の研究では、障害者の就労に関しても、その指導内容についての検討を進められればと考えていたが、残念ながら、そこまで進めることができなかった。社会が複雑になればなるほど、知的障害者本人たちにとっては、その対応は難しいものになってしまう。特に軽度の知的障害者や発達障害の人たちにとっては、支援者もなく自分で就労の実務をしていかなければならないような状況もある。今後、彼ら、彼女らを守っていくためには、支援の充実とともに、彼らにわかりやすい学習の機会を保障することが重要であろう。その意味では、今回の研究で、そこまで手を入れられなかったのは残念である。今後引き続き研究を進めていきたいと考えている。

最後に、この話、知的障害者の社会教育、生涯教育はもっと進んでいくと考えられる。今回の成果が今後の知的障害者の生涯教育の場で使用されるようになっていって欲しいと願うと共に、知的障害者の金融・経済教育、消費者教育の研究のための資料のひとつとなるように願っている。

表2 卒業生講座のアンケートより

テーマ	STEP 6 「ガッツです！キャッシュレス！」
感想等	○今日の講座でわかったこと
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャッシュレス決済の方式。</li> <li>・現金を使わずにキャッシュレスで支払うことができることを学びました。</li> <li>・これから持つときに使いすぎないように気をつけます。</li> <li>・キャッシュレス支払いの方法。</li> <li>・カードの種類がわかりました。</li> <li>・プリペイドは前払いです。</li> </ul>
	○今日の感想
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私にはクレジットカード、デビットカードはむずかしいと思いました。</li> <li>・キャッシュレスの3つの支払いについて全部わかりました。</li> <li>・難しかったことは、計画的に使うとき、いくらまで使っているのかということでした。</li> <li>・キャッシュレスの支払いの勉強になりました。</li> <li>・カードの種類を覚えました。(ナナコ、ワオン、パスモなど)</li> </ul>
テーマ	STEP 9 「字が小さすぎて読めない!!! (契約の話)」
感想等	○今日の講座でわかったこと
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約について、契約とは2人以上の人が合意した約束のことがわかったことです。</li> <li>・困ったことがあったときは相談すること。</li> <li>・すぐに契約しないこと。</li> <li>・契約トラブルになってしまったら支援者または家族に相談。</li> <li>・悪質な契約があること、冷静に考えるということ。</li> <li>・「いりません」「やりません」を言うこと。</li> <li>・契約のこと。</li> </ul>
	○今日の講座で難しかったこと
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約のトラブルの勉強が難しかったです。</li> <li>・全体的に難しかったです。</li> <li>・美容、エステ、高額なものでお金を取られて大変なことになる。</li> <li>・極細な話があり、上手くきっちり考えて、時には判断することもありました。</li> <li>・いろいろありすぎてわからないし、頭にハテナがわいてきた。</li> </ul>
	○今日の感想
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約の話の勉強が難しかったです。</li> <li>・相談するのが大切です。</li> <li>・自分ひとりで考えないで支援者に相談してから。</li> <li>・相手の顔を見て、相談してから契約はした方がいいとわかりました。</li> <li>・契約書、読むの初めてでした。</li> </ul>

## 7. 資料

### テキストの例



**STEP 1**

あなたの給料、  
いま  
**今、いくら？**

みなさんは学校を卒業したらどうします？  
きっとどこかで働きたいと思っていると思います。  
でも、何のために働くのでしょうか？  
働くのが好きだから？ やりたい仕事があるから？  
「給料がもらえるから？」  
でも、その給料はだれがくれるのでしょうか？  
ここでは、「給料」について考えてきたいと思います。

### 2. 年金のいろいろな仕組み

#### 1. 年金の種類

年金の制度は複雑で難しいものですが、基本的には STEP 3で勉強した「保険」と同じだと思ってください。まず、社会保険としての「国民が全員加入する」年金（公的年金）と、必要だと思ふ人が加入する私的年金、個人年金保険に分けられます。

通常、年金というと下の①の公的年金のことをさして使うことが多いようです。

#### ①公的年金

国民全員が加入する年金

#### ②私的年金、個人年金保険

自分の生活の必要なものを選んで加入する年金保険

#### 2. 公的年金とは

人はだれもが、高齢になったり、病気になったりして、働けなくなっていきます。働けなくなると給料がもらえないので、生活に困るようになります。公的年金は、働けなくなっても生活できるように、働けなくなったときに、一定額の

### パワーポイント教材の例

<らしのテキスト2「社会と経済」>

**2 年金のいろいろな仕組み**      きゅうふ      きんがく  
**5) 給付される年金の金額**

	国民年金	厚生年金
おさ ほけんりょう 納める保険料 (1カ月)	16,410円	給料の額によってきまる。 会社も納める。
おさ きかん 納める期間	40年	しゅうしょく たいしよく 就職から退職まで
ねんきん きゅうふ 年金が給付される年齢	65歳	65歳
ねんきん きゅうふがく 年金の給付額 (1カ月)	64,940円	納めた保険料と期間で金額が決まる

<らしのテキスト2「社会と経済」>

### 1) 契約書について ワークシート

#### 1. 契約について

契約とは、

- ① 2人以上の人が  した約束のこと。
- ② 契約は  なければならない。
- ③ 契約の時に  を作ることもあるが、  
契約は  約束でも成立する。